

第2章 防府市における生涯学習の現状と課題

1 生涯学習推進計画（第3次）における取組と課題

「第3次防府市生涯学習推進計画」では、「いつでもどこでも学べる環境づくり」、「ひとりひとりがきらめく人づくり」、「学びを通じてつながる地域づくり」を基本目標とし、令和4年度から4年後を目標として施策に取り組んできました。

基本目標に基づく主な取組や課題は次のとおりです。

基本目標1 「いつでもどこでも学べる環境づくり」

【主な取組】

市民の生涯学習意識の醸成や自主的な学習活動を支援するため、各種講座の実施や情報紙の発行、イベントの開催等の多様な学習機会の提供を行いました。

○生涯学習意識の醸成

- ・聞いて得するふるさと講座（出前講座）の実施
- ・生涯学習フェスティバル^{*1}の開催、学ぼうやコンテスト^{*2}の開催
- ・ボランティア協働情報紙^{*3}「まなばら」、こども向け生涯学習情報紙「まなぼうやだより」の発行

○多様な学習機会の提供

- ・各年齢期に応じた子育て講座、子育てサークルの開催
- ・市民教養講座、家庭教育学級、高齢者教室、各種セミナー等の開催
- ・国際交流フェスティバルの開催
- ・放課後子ども教室^{*4}の開催、職場体験学習の実施、市民文化祭の開催
- ・人権学習市民セミナー、講演会の開催



自主企画講座
(生涯学習フェスティバル)

-
- 1 生涯学習フェスティバル：生涯学習ボランティアや市民が主体的に企画・運営し、学ぶことの楽しさを伝えるとともに、多くの市民が生涯学習活動に参加する機会となるイベント。
 - 2 学ぼうやコンテスト：防府市の生涯学習マスコットキャラクター「学ぼうや」とその家族を題材にしたイラスト作品のコンテスト。
 - 3 ボランティア協働情報紙：生涯学習課、防府市社会福祉協議会、防府市市民活動支援センターの3機関で作成する生涯学習・市民活動・ボランティア活動に関する情報紙。
 - 4 放課後子ども教室：放課後等の安全・安心なこどもたちの居場所を確保するために、地域住民の参画を得て、こどもたちの学習やスポーツ・文化活動を行う。

○生涯学習関連施設^{*1}の整備・充実

- ・公民館だより等による学習情報発信
- ・小野公民館・牟礼公民館の建替え、公民館の整備・修繕と維持管理
- ・防府市文化センターの開設、ルルサス文化センターや公民館における教養講座・サークル活動等の実施
- ・子ども読書フェスティバルの開催
- ・青少年科学館や文化財郷土資料館における講座や企画展の実施

○学習相談体制の充実

- ・各施設に生涯学習や社会教育に関わる専門的職員を配置

○産学公民^{*2}の教育ネットワークの強化

- ・防府市生涯学習推進会議による生涯学習推進計画の進行管理と実施状況の総合調整
- ・ボランティア協働情報紙「まなばら」の発行、ほうふ市民活動フェスタの開催
- ・「家庭の日」親子ふれあいイベント、大学公開講座の開催

【現状と課題】

生涯学習意識の醸成や多様な学習機会の提供については、施策の体系にもとづき、様々な講座やイベントが実施されました。特に、聞いて得するふるさと講座（出前講座）は、小・中学校をはじめとする関係機関や団体に積極的に幅広く活用され、実施件数は年々増加傾向にあり、一定の成果が認められます。

一方で、講座やイベントによって参加者に偏りがある等の課題があり、誰でも気軽に参加できるきっかけづくり、より多くの人が参加しやすいようにソーシャルメディア^{*3}の活用を含めた効果的な情報発信が必要であると考えられます。

また、近年の社会情勢の変化に伴い多様化する学習ニーズへの対応についても課題であり、講座やイベント内容の更なる充実が求められています。

生涯学習関連施設の整備・充実については、市民の学習活動を総合的に支援する地域の拠点施設として引き続き整備に努め、機能面での充実が求められています。

産学公民の教育ネットワークの強化については、大学や企業等との連携により、各種事業を実施しました。中でも、「家庭の日」親子ふれあいイベントは、参加者が増加傾向にあり、参加者・従事者双方の満足度が高いイベントとなっています。また、青少年科学館においては、市内企業等と連携し、市内企業等が有する優れた技術の展示を行いました。来場者の満足度を高めるためにも、産学公民の連携による継続的な実施が求められています。

今後の生涯学習に関する環境づくりにおいては、学習によって得られた知識や技能、参加者同士のつながりを更なる学びや活動につなげ、地域づくりやまちづくりに生かすという視点がより一層求められます。

1 生涯学習関連施設：公民館・科学館・図書館等の社会教育施設のほか、スポーツ施設、文化施設、また生涯学習を支援する施設を含む。

2 産学公民：民間企業、学校、国・地方公共団体、地域住民・NPO等を表す。

3 ソーシャルメディア：インターネットを利用して個人間のコミュニケーションを促進するサービスの総称。

基本目標2 「ひとりひとりがきらめく人づくり」

【主な取組】

学習成果を生かせる機会の充実を図り、さまざまな技術や知識を持つ人材が活躍できる体制づくりを行いました。

○生涯学習を支える人材の育成

- ・『ほうふ幸せます人材バンク「指導者バンク」』^{*1}登録者へ研修会の実施
- ・スポーツ、環境、子育て等に関する養成講座や研修会の実施
- ・県主催の「地域協育ネット^{*2}コーディネーター養成講座^{*3}」の積極的な活用

○学習成果を生かす機会の充実

- ・『ほうふ幸せます人材バンク「指導者バンク」』登録者による公開講座（学ぼうやセミナー）の開催
- ・生涯学習フェスティバルにおける一般公募による自主企画講座や発表会等の開催
- ・地区文化祭、作品展での作品発表
- ・子ども読書フェスティバル、図書館まつりの開催
- ・市民文化祭の開催

○主体的な市民活動への支援

- ・市民活動支援センターを中心とした市民活動団体への支援（相談、情報収集、発信）

【現状と課題】

生涯学習を支える人材の育成については、さまざまな養成講座や研修会が実施されました。その中で、参加者の固定化や高齢化が課題として挙げられます。新たな人材の発掘や養成に向け、周知方法の見直しや、自主的に参加したくなるような学習機会の提供が求められます。

また、養成講座等の開催においては、地域の実情や参加者の習熟度に応じた講座内容の検討など、きめ細やかな対応が必要であると考えられます。

学習成果を生かす機会の充実や主体的な市民活動への支援においても、参加者や参加団体が固定化する傾向にあり、新たな参加者を獲得するための広報活動などを積極的に行う必要があります。特に、市民活動の支援においては、市民活動ボランティアマッチング^{*4}の活用や関係者間での好事例の共有などを通じて、市民活動団体の基盤強化や活性化、市民活動に対する市民の参加意欲を高めることが求められます。

1 『ほうふ幸せます人材バンク「指導者バンク」』：ボランティア講師の登録・派遣制度。

2 地域協育ネット：幼稚期から中学校卒業程度までの子どもの育ちや学びを、地域ぐるみで見守り、支援することを意図した山口県が推進する教育支援体制。概ね中学校区をひとまとまりとし地域協育ネット協議会^{*5}を核とした、学校・家庭・地域の連携による仕組み。

3 地域協育ネットコーディネーター養成講座：「地域協育ネット」に係るコーディネーターとして活動する者を対象とし、必要な知識・技能等を身に付け、地域活動の核となる人材を養成する。

4 市民活動ボランティアマッチング：ボランティア活動を希望する市民のボランティア登録と、ボランティアの募集を希望する団体などのニーズ登録を受け付けて、双方に情報提供などを行い、人と活動をつなぐ取組。

5 地域協育ネット協議会：めざす子どもの姿や具体的な活動内容等を共有し、協働で推進する。中学校区内の各学校運営協議会の代表、PTA代表、校長、公民館社会教育指導員で構成。

基本目標3 「学びを通じてつながる地域づくり」

【主な取組】

学習する人同士が、お互いに教え合い、学び合うことでつながりを深め、地域課題の解決に向けて地域全体で取り組む活動を支援するための仕組みづくり等を行いました。

○地域活動の拠点づくり

- ・「防府まるごと学校のつどい^{*1}」の開催
- ・地域連携教育プロジェクト会議の開催
- ・コミュニティ・スクール^{*2}の推進
- ・放課後子ども教室の開催
- ・公民館家庭教育学級、高齢者教室、就学期子育て講座等の開催

○地域の協働^{*3}を進めるための仕組みづくり

- ・『ほうふ幸せます人材バンク「支援者バンク」』^{*4}による学校づくり、地域づくりの推進
- ・「家庭教育支援チーム^{*5}」による子育てひろば、ふれあい体験、子育て学習会の開催
- ・山口短期大学との協働による「家庭の日」親子ふれあいイベントの開催
- ・防府市青少年育成市民会議^{*6}による「家庭の日」運動^{*7}に関する啓発用品（ポスター、チラシ等）の作成・配布
- ・母子保健推進員による訪問活動や各地区子育てサークルの実施
- ・家庭教育学級や女性学級等の公民館活動の推進

【現状と課題】

地域活動の拠点づくりについては、多様化する市民ニーズに対応するため、公民館の講座や学級の充実などが求められています。コミュニティ・スクールの推進では、学校運営協議会における協議の充実などによる更なる質的向上を図る必要があります。

また、地域の協働を進めるための仕組みづくりとして、学校や地域の活性化のため、学校支援ボランティアの登録制度である『ほうふ幸せます人材バンク「支援者バンク」』や、地域全体での家庭教育力の更なる向上を目指し、子育て経験者等で構成する「家庭教育支援チーム」を設置しています。その中で、人員の不足が課題として挙げられます。「学び」を「活動」につなげることで持続可能な仕組みづくりにするため、地域の方に事業内容を周知し認知度を高め、理解が深まるよう努める必要があります。

-
- 1 防府まるごと学校のつどい：コミュニティ・スクール及び地域協育ネットの関係者を対象とした地域連携教育における目標や活動内容等の共有を行うための会議。
 - 2 コミュニティ・スクール：保護者や地域住民等で構成される学校運営協議会の意見を学校に反映させ、より充実した学校運営を図る制度。
 - 3 協働：多様な主体が、それぞれの特性を生かし、互いを尊重し、協力して取り組むこと。
 - 4 ほうふ幸せます人材バンク「支援者バンク」：学習支援など学校支援を行うボランティアの登録・派遣制度。
 - 5 家庭教育支援チーム：学習機会の提供、親子参加型行事の開催、子育てに関する情報提供及び相談対応を実施する家庭教育支援を行うことにより、地域全体で家庭教育を充実させていくことを目的とした子育て経験者等で構成するチーム。
 - 6 防府市青少年育成市民会議：市民の総意を結集して青少年育成市民運動を展開し、青少年の健全な育成を図ることを目的とした会議。
 - 7 「家庭の日」運動：青少年を健全に育てるための最も重要な基盤である家庭を見直すために、毎月第3日曜日を「家庭の日」として、防府市青少年育成市民会議を中心に推進している運動。

2 「生涯学習に関する意識調査」にみる現状と課題

「生涯学習に関する意識調査」の概要

「第4次防府市生涯学習推進計画（学ぼうやプラン4）」の策定を行うにあたり、防府市民の生涯学習に関する意識と活動の現状及び学習ニーズを把握するため、意識調査を実施しました。

なお、令和2年度の調査結果を踏まえ、令和6年度の調査結果の分析等を行いました。

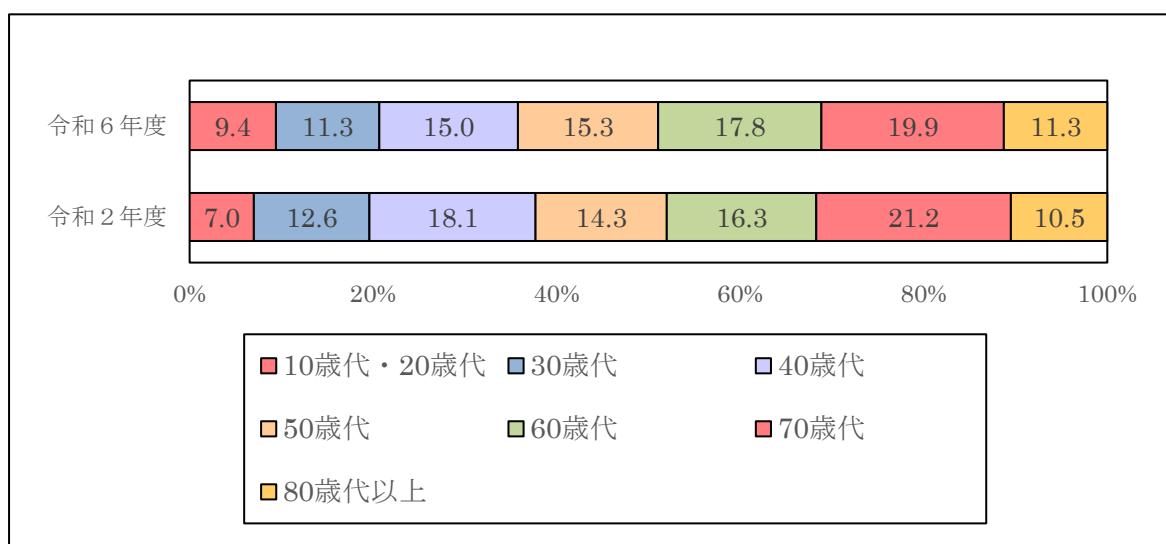
- 調査対象：市内在住の18歳以上の2,000人を無作為抽出

- 調査期間：令和6年8月26日から9月20日まで

- 有効回答者数：477人（回収率：23.9%）

なお、「n」は当該質問の回答者数を表しており、複数回答が可能な質問については、各項目の割合の合計が100%を超える場合があります。

■ 回答者の属性（年代）



<参考>

令和2年度実施の「生涯学習に関する意識調査」

- 調査対象：市内在住の20歳以上の2,000人を無作為抽出

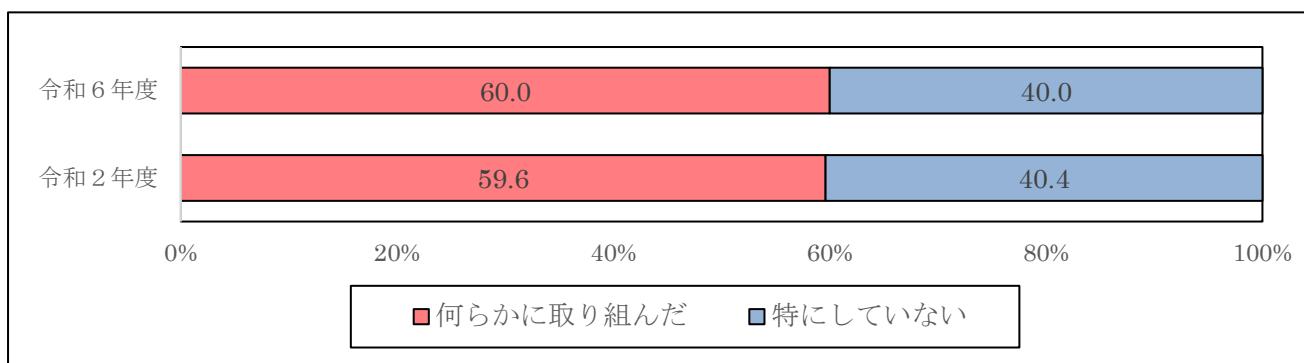
- 調査期間：令和2年7月1日から7月31日まで

- 有効回答者数：673人（回収率：33.7%）

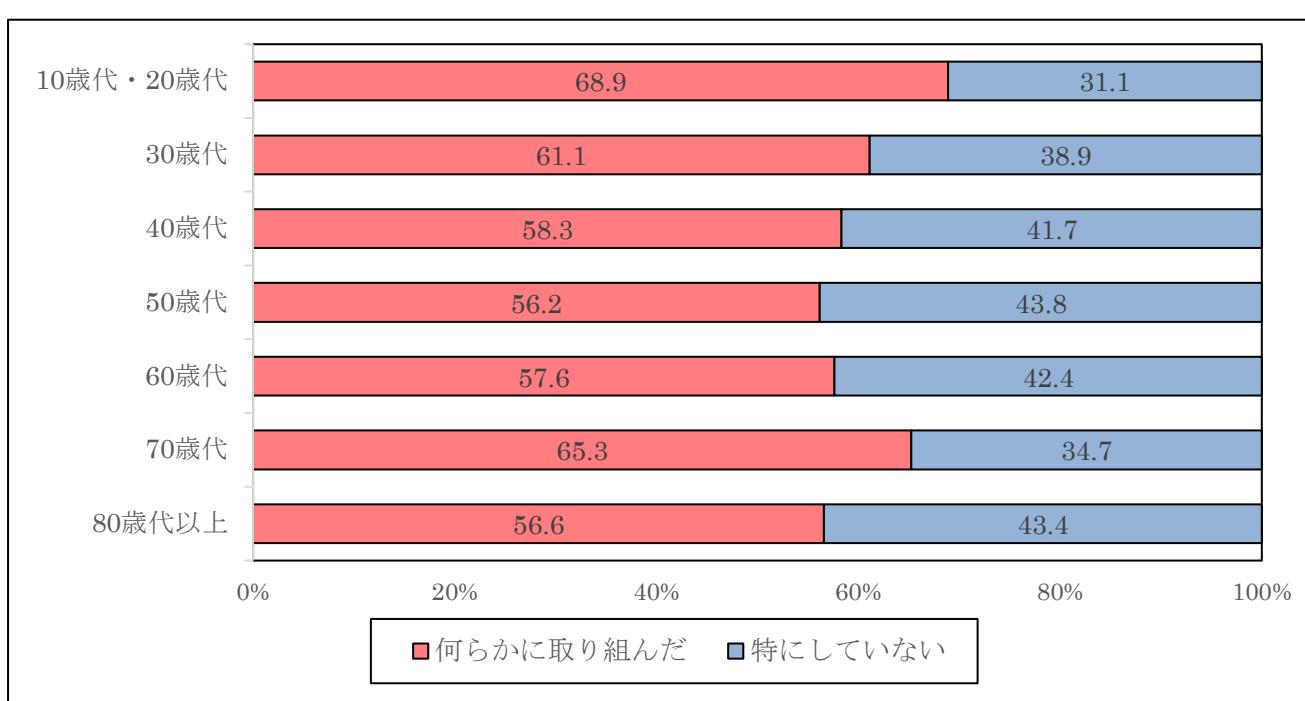
(1) 生涯学習への取組状況について

問 あなたは、この1年間、次の分野に関する学習活動をしたことがありますか。

■ 生涯学習の取組状況について



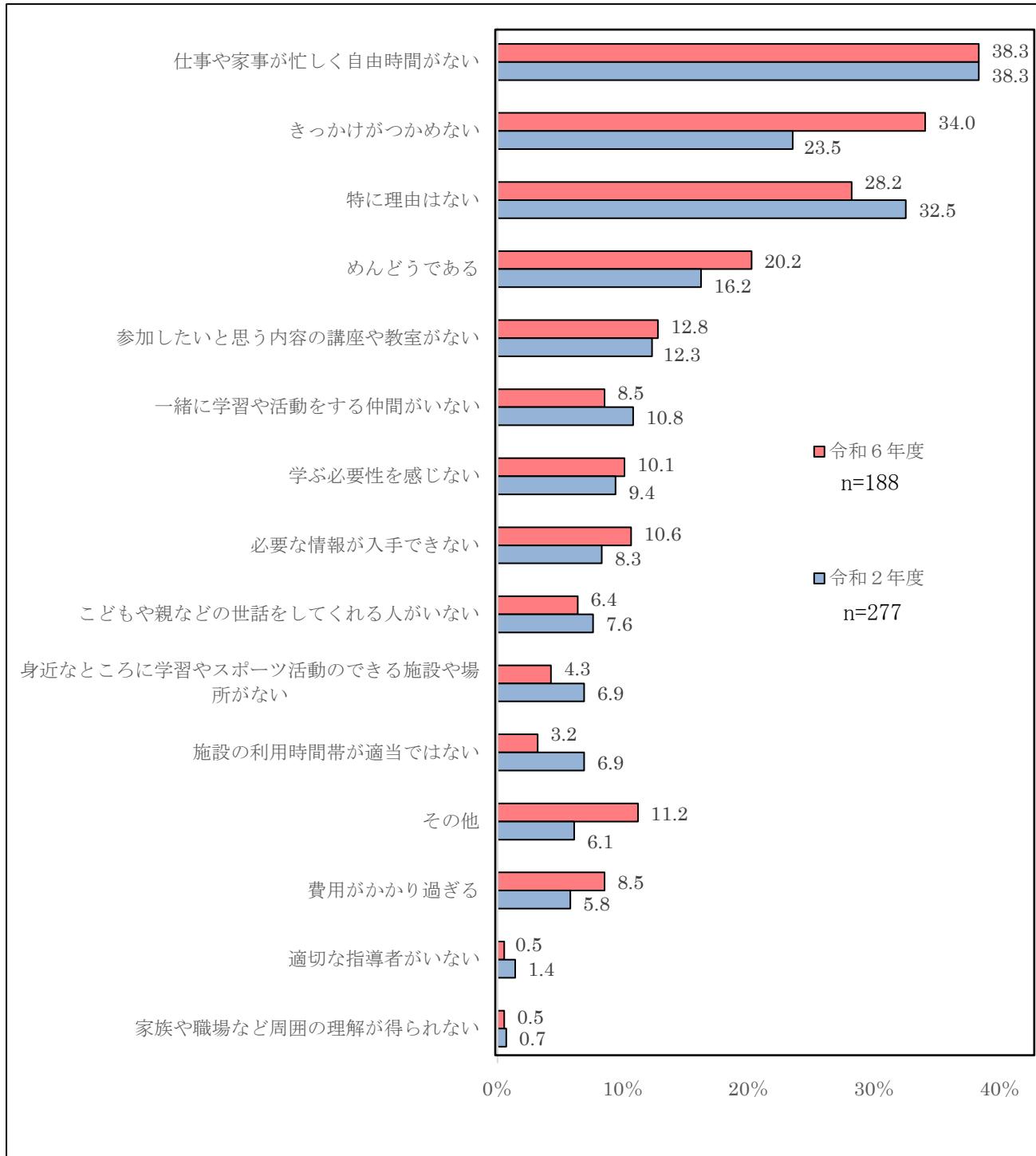
■ 生涯学習の取組状況について（年代別）



(2) 学習活動に特に取り組まなかった理由

- 問 あなたが、学習活動をしなかった理由はなんですか。
(複数回答可能で、割合は各項目の選択者数をnで除したもの)

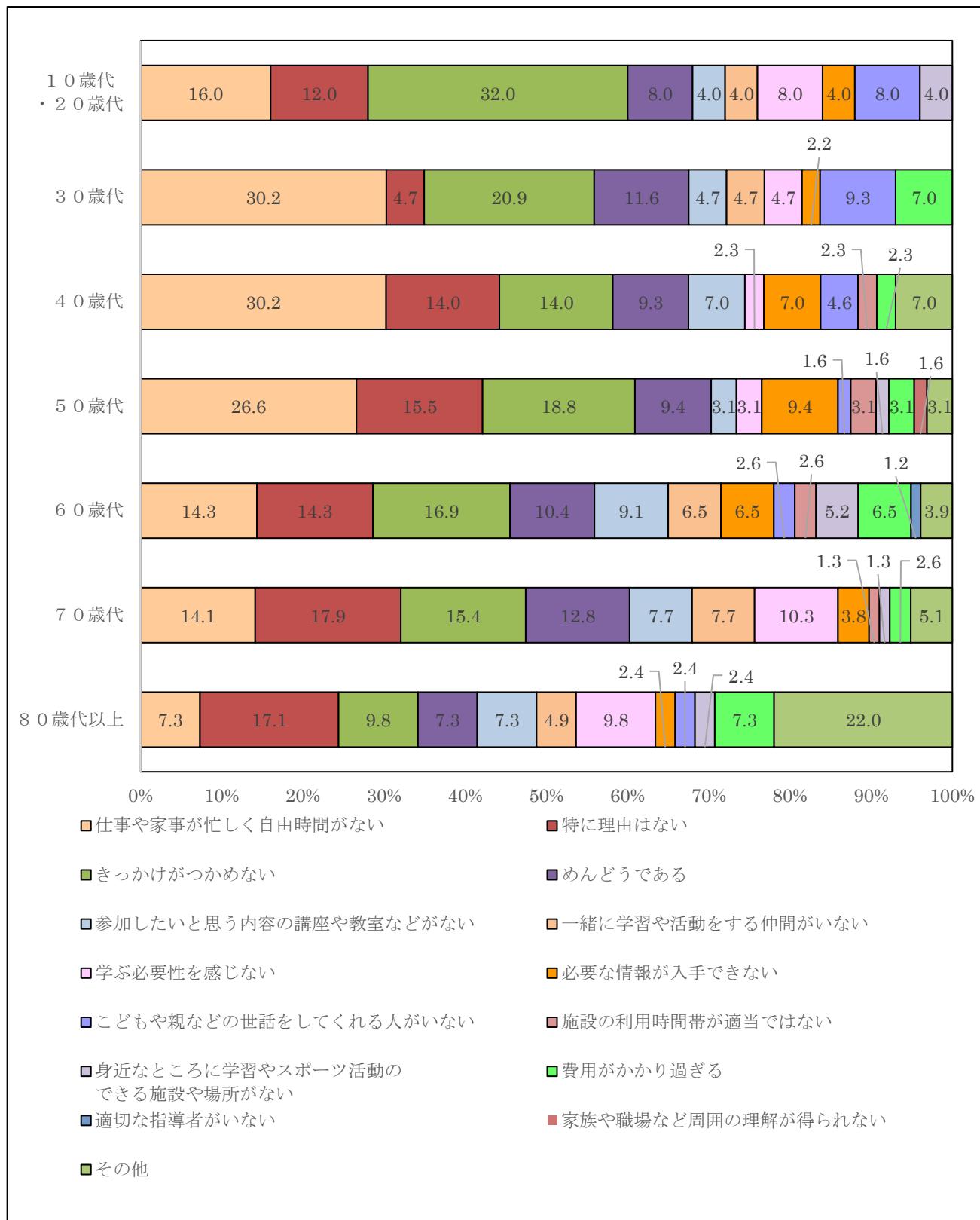
■ 学習活動に特に取り組まなかった理由について



学習活動を特にしていない理由については、前回調査と同様に「仕事や家事が忙しく自由時間がない」、「きっかけがつかめない」、「特に理由はない」が上位3項目となっています。

また、「一緒に学習や活動をする仲間がいない」との回答割合は低くなつた一方で、「めんどうである」、「必要な情報が入手できない」との回答が多くなっています。

■ 学習活動に特に取り組まなかった理由について（年代別）



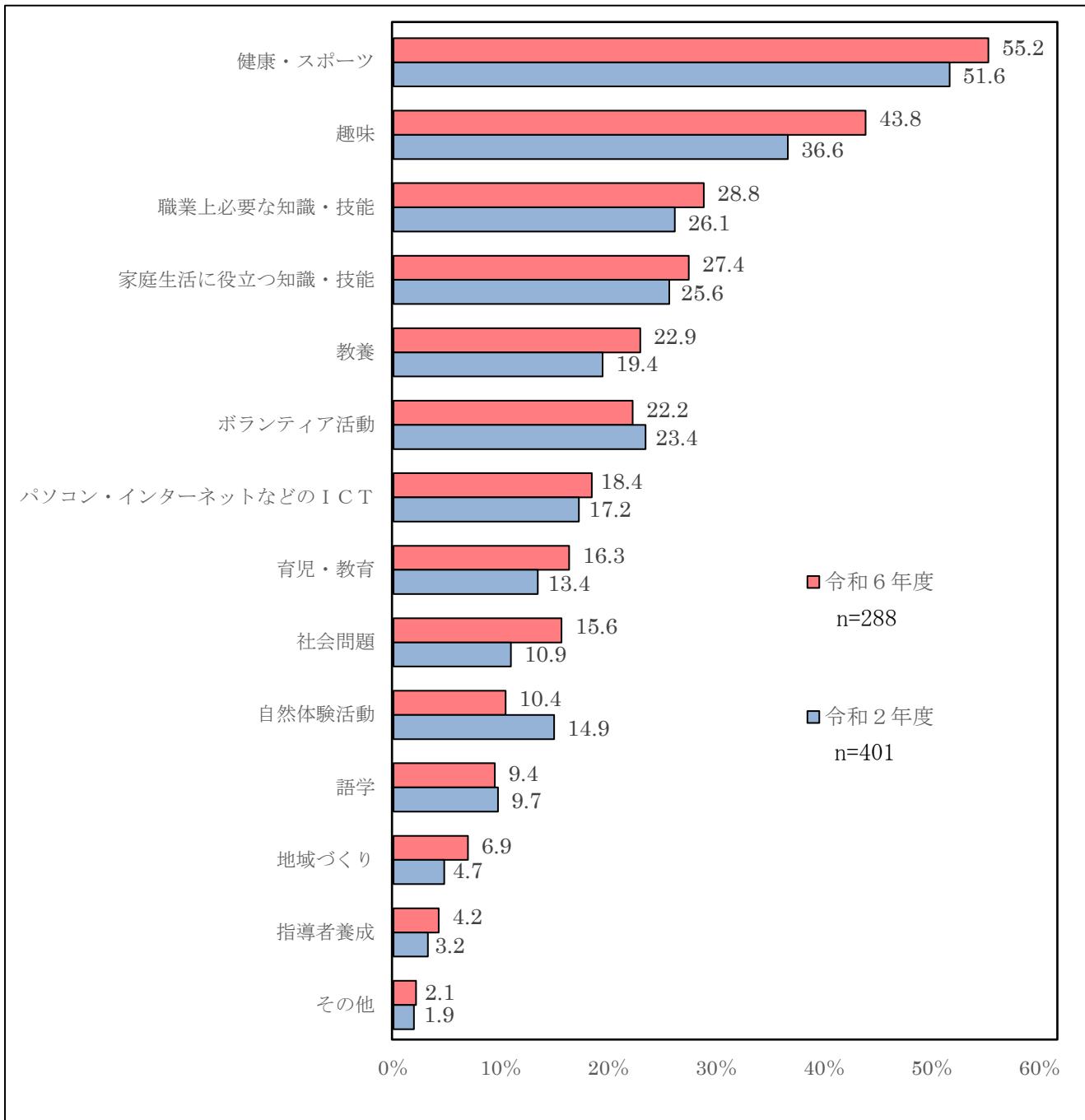
どの年代でも「仕事や家事が忙しく自由時間がない」、「特に理由はない」、「きっかけがつかめない」が比較的多く回答されており、学習活動を始める身近なきっかけの場の創出が重要と考えられます。

また、対象者のライフステージに応じた魅力ある学習機会の提供をすることで生涯学習のきっかけづくりを図っていくことが求められています。

(3) 生涯学習の活動内容等について

■ 生涯学習の取組状況について（活動内容別）

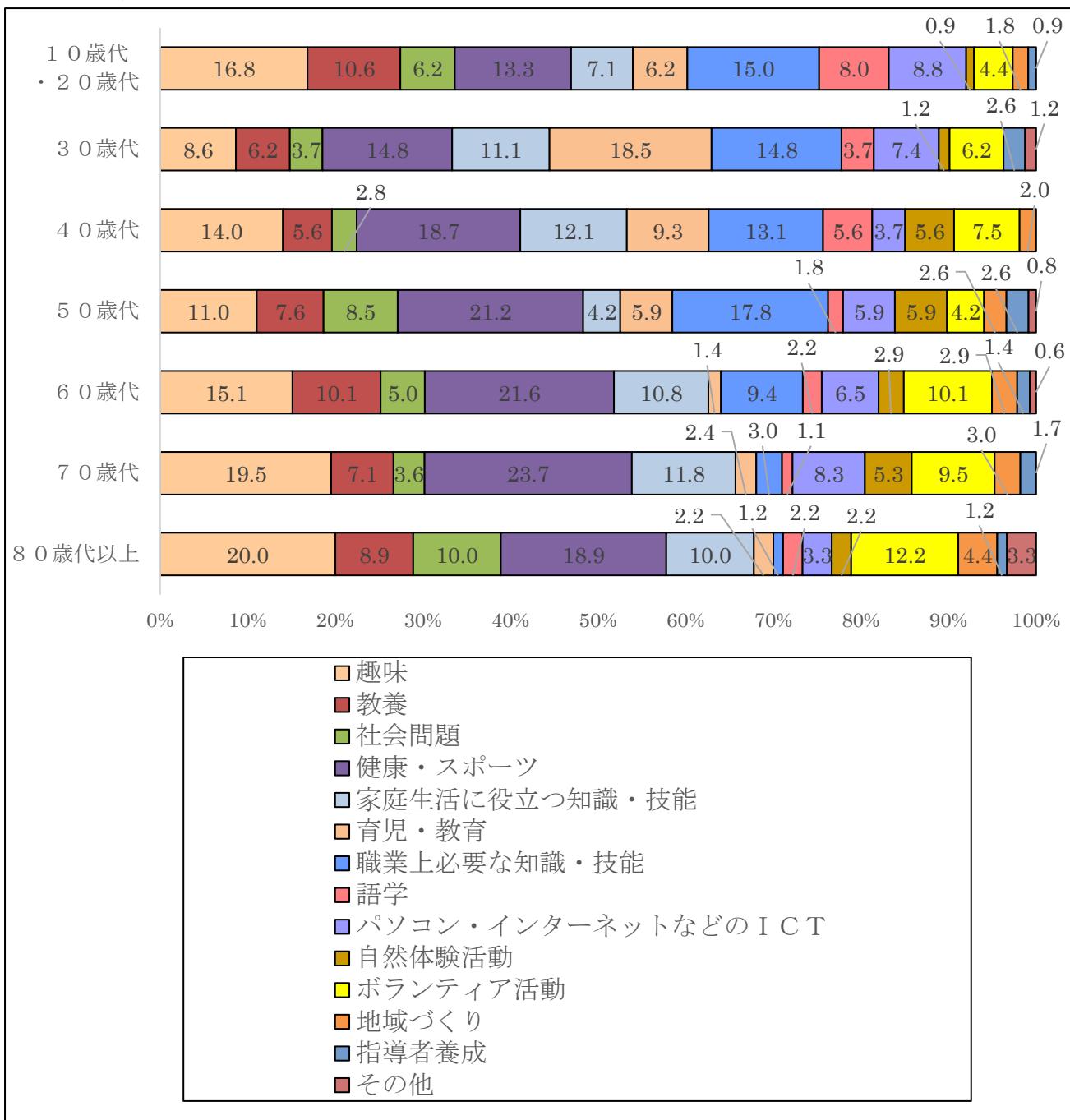
(複数回答可能で、割合は各項目の選択者数をnで除したもの)



活動内容については、「健康・スポーツ」、「趣味」、「職業上必要な知識・技能」、「家庭生活に役立つ知識・技能」が上位項目となっており、前回の調査結果と共通しています。

一方、前回調査と比較すると、「ボランティア活動」、「自然体験活動」の割合が低くなり、「教養」、「パソコン・インターネットなどのICT」の割合が高くなっています。

■ 生涯学習の取組状況について（活動内容別・年代別）



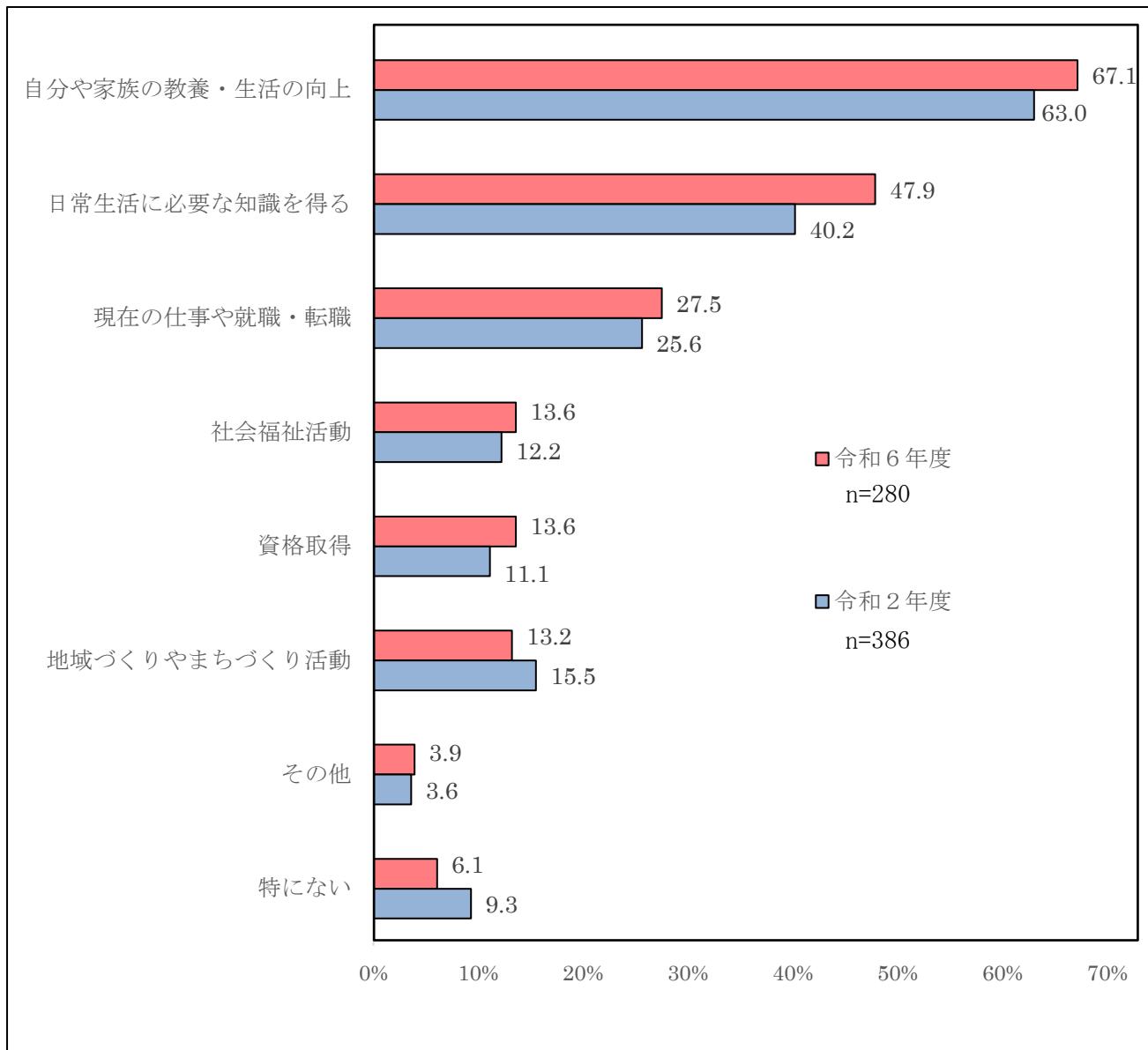
どの年代においても「趣味」、「健康・スポーツ」の割合が比較的高くなっています。

また、前回調査と比較して、30歳代、40歳代で「育児・教育」、50歳代で「職業上必要な知識・技能」の割合が高くなっています。

《学習成果の活用》

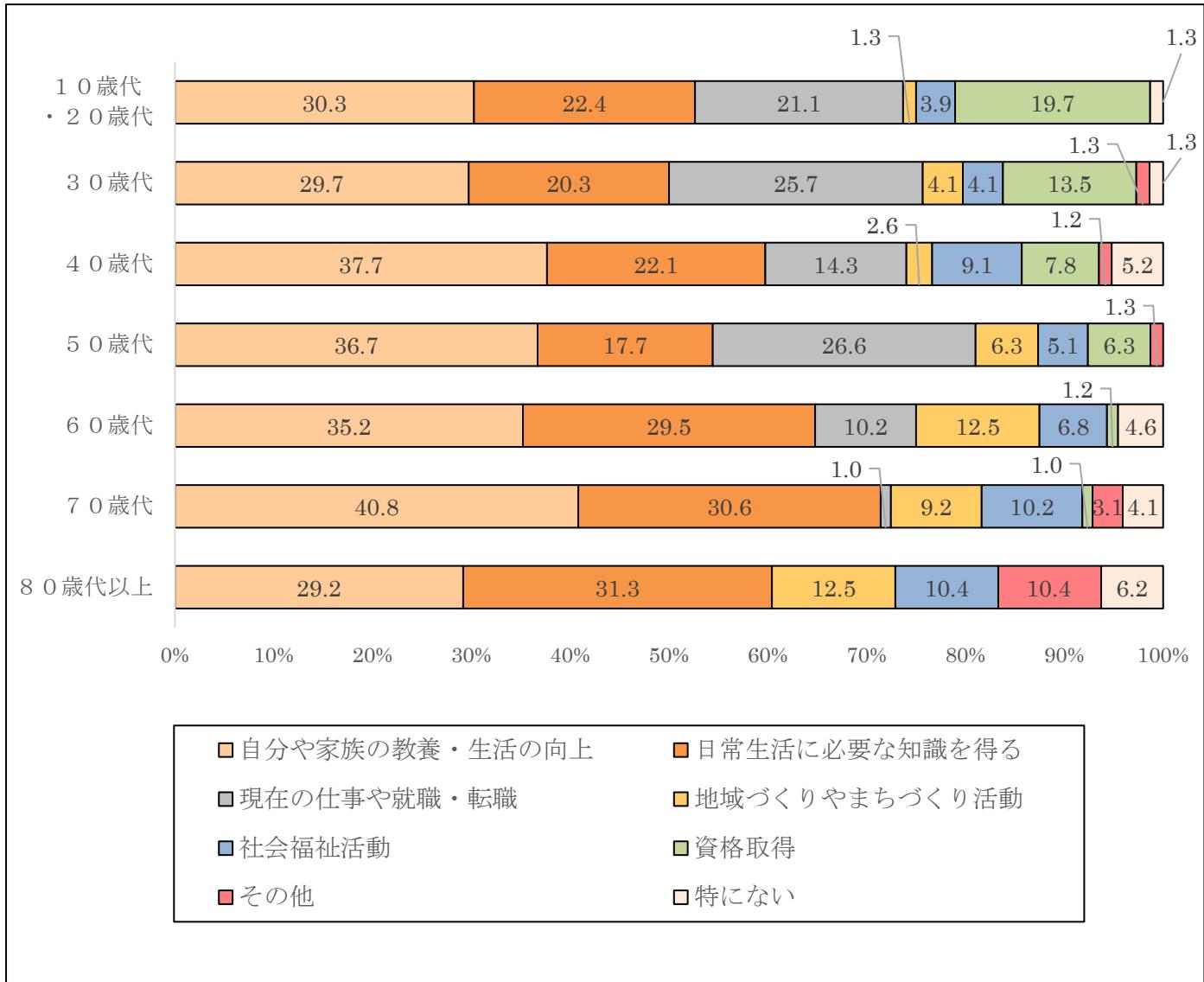
- 問 あなたは、学習活動で学んだことを今後どのように生かしたいと思われますか。
 (複数回答可能で、割合は各項目の選択者数をnで除したもの)

■ 学習成果の活用について



学習活動で学んだ成果をどのように活用したいと思うかについては、前回の調査と同様「自分や家族の教養・生活の向上」、「日常生活に必要な知識を得る」、「現在の仕事や就職・転職」が上位3項目となっており、個人に関わることが多くなっています。

■ 学習成果の活用について（年代別）



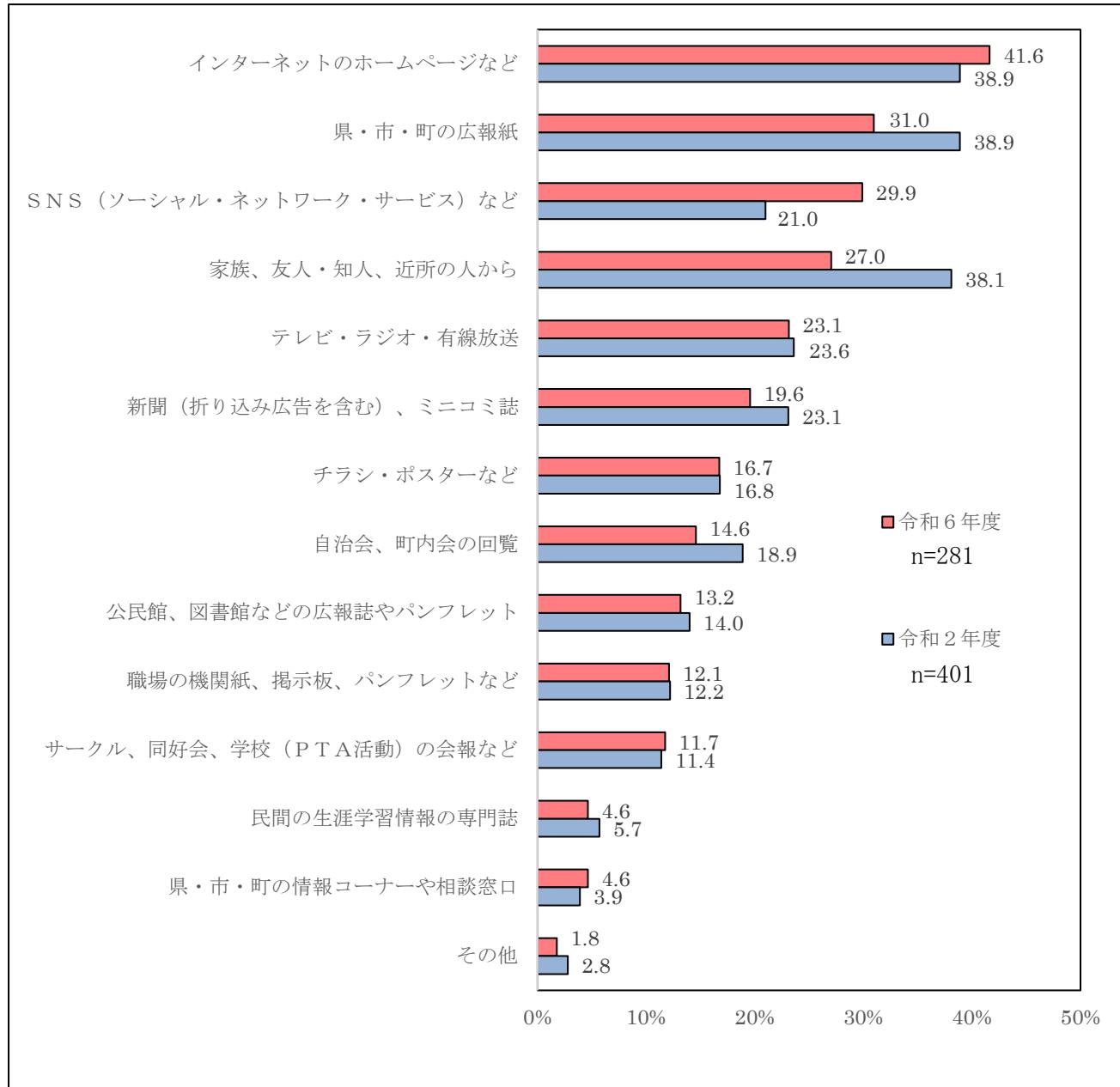
どの年代においても、「自己や家族の教養・生活の向上」、「日常生活に必要な知識を得る」が高い割合を占めています。

また、50歳代までは「現在の仕事や就職・転職」、「資格取得」が比較的高い割合となっています。

《生涯学習に関する情報の入手方法》

- 問 あなたは、学習活動に関する情報をどのような方法で収集しておられますか。
(複数回答可能で、割合は各項目の選択者数をnで除したもの)

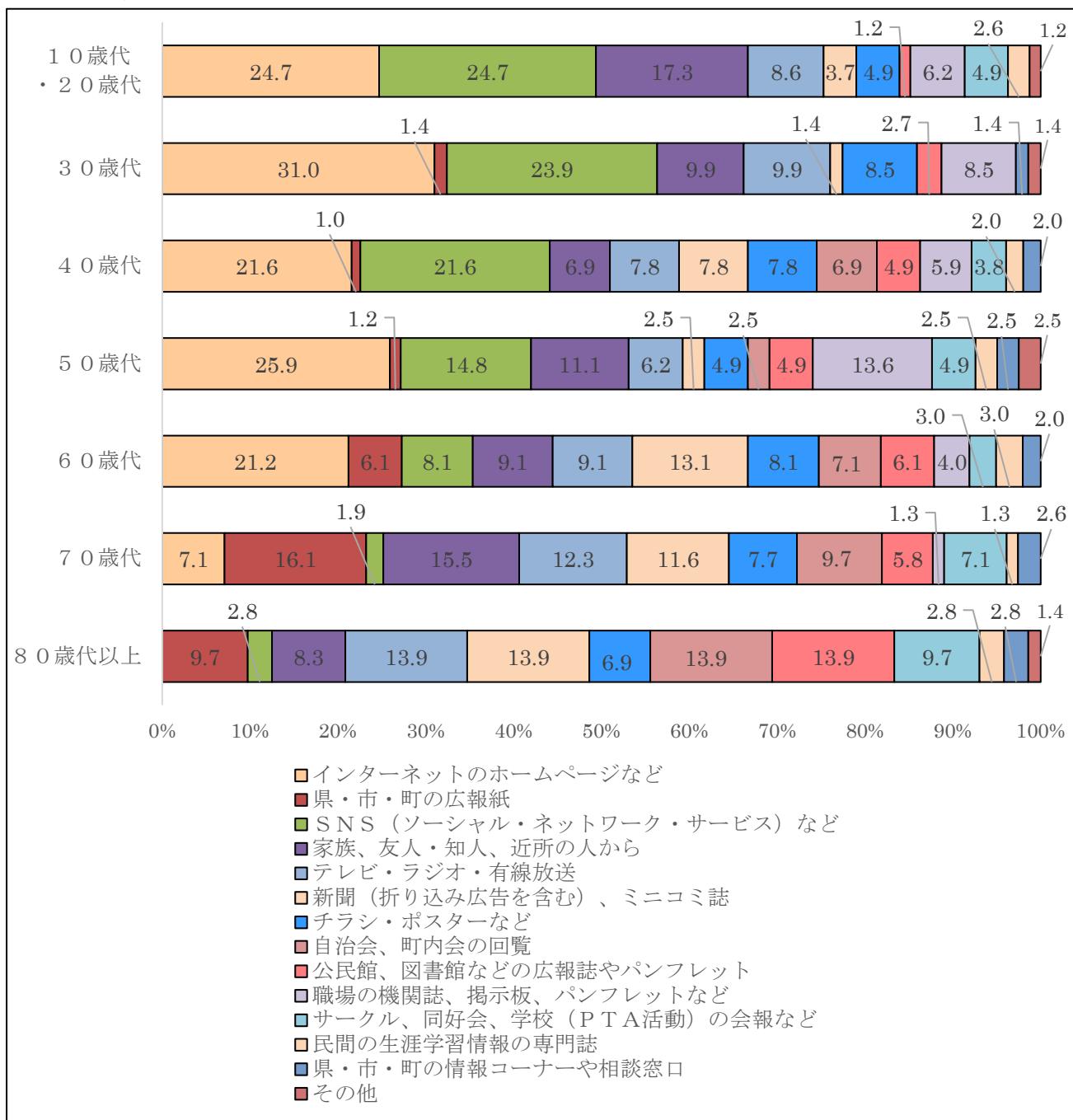
■ 生涯学習に関する情報の入手方法について



前回調査より、「インターネットのホームページなど」、「SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）など」の割合が高くなっています、「県・市・町の広報誌」、「新聞（折り込み広告を含む）、ミニコミ誌」の割合が低くなっています。

紙媒体よりも電子媒体で情報を入手する機会が増えていることがわかります。

■ 生涯学習に関する情報の入手方法について（年代別）

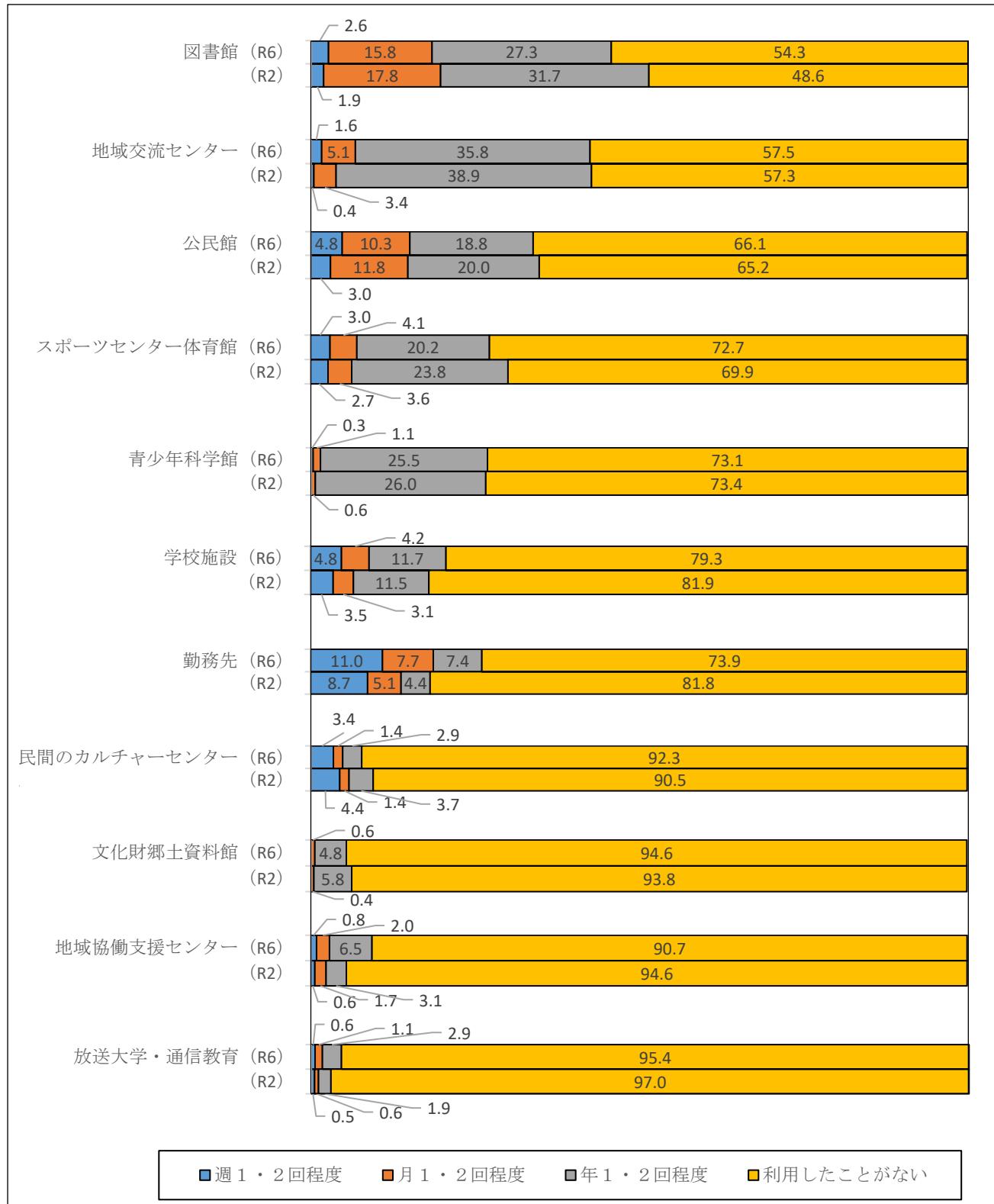


年代別にみると、10歳代・20歳代、30歳代、40歳代では「インターネットのホームページなど」、「SNS (ソーシャル・ネットワーク・サービス) など」が占める割合がおよそ半数を占めています。60歳代以上になると「新聞 (折り込み広告を含む) 、ミニコミ誌」などの紙媒体の割合が高くなっています。対象年齢に応じた様々な情報媒体の活用が求められます。

《学習施設の利用回数と満足度》

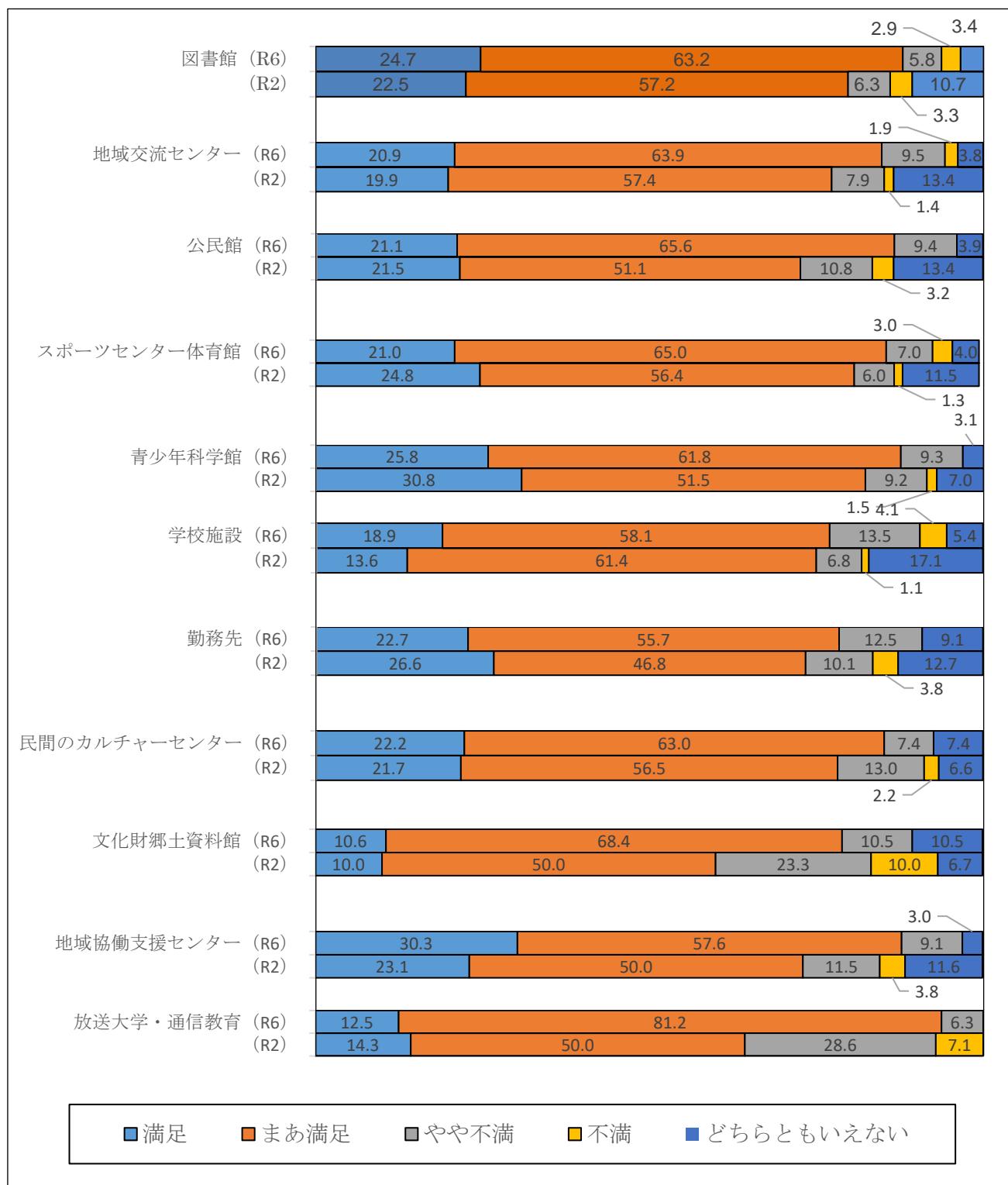
- 問 あなたは、この一年間、生涯学習活動に以下の施設等をどの程度利用しましたか。
また、施設についての利用回数と満足度について教えてください。

■ 学習施設の利用回数について



利用回数はどの施設も前回調査とあまり変化がありません。

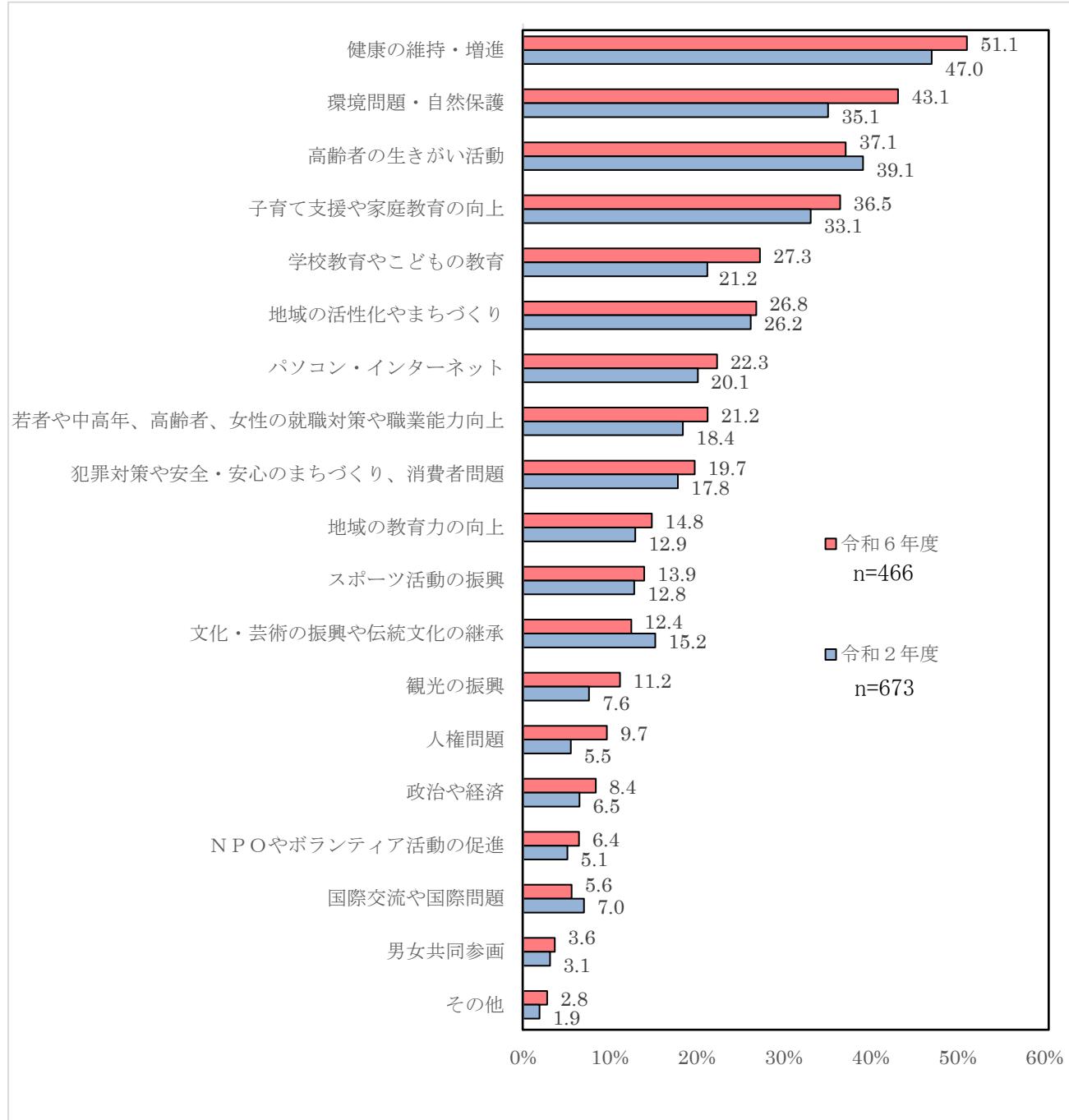
■ 学習施設の満足度について



(4) 学習課題の重要度

- 問 あなたは、今後、人々が学習活動を進めていくにあたって、どのような分野の学習課題が大切と思いますか。
(複数回答可能で、割合は各項目の選択者数をnで除したもの)

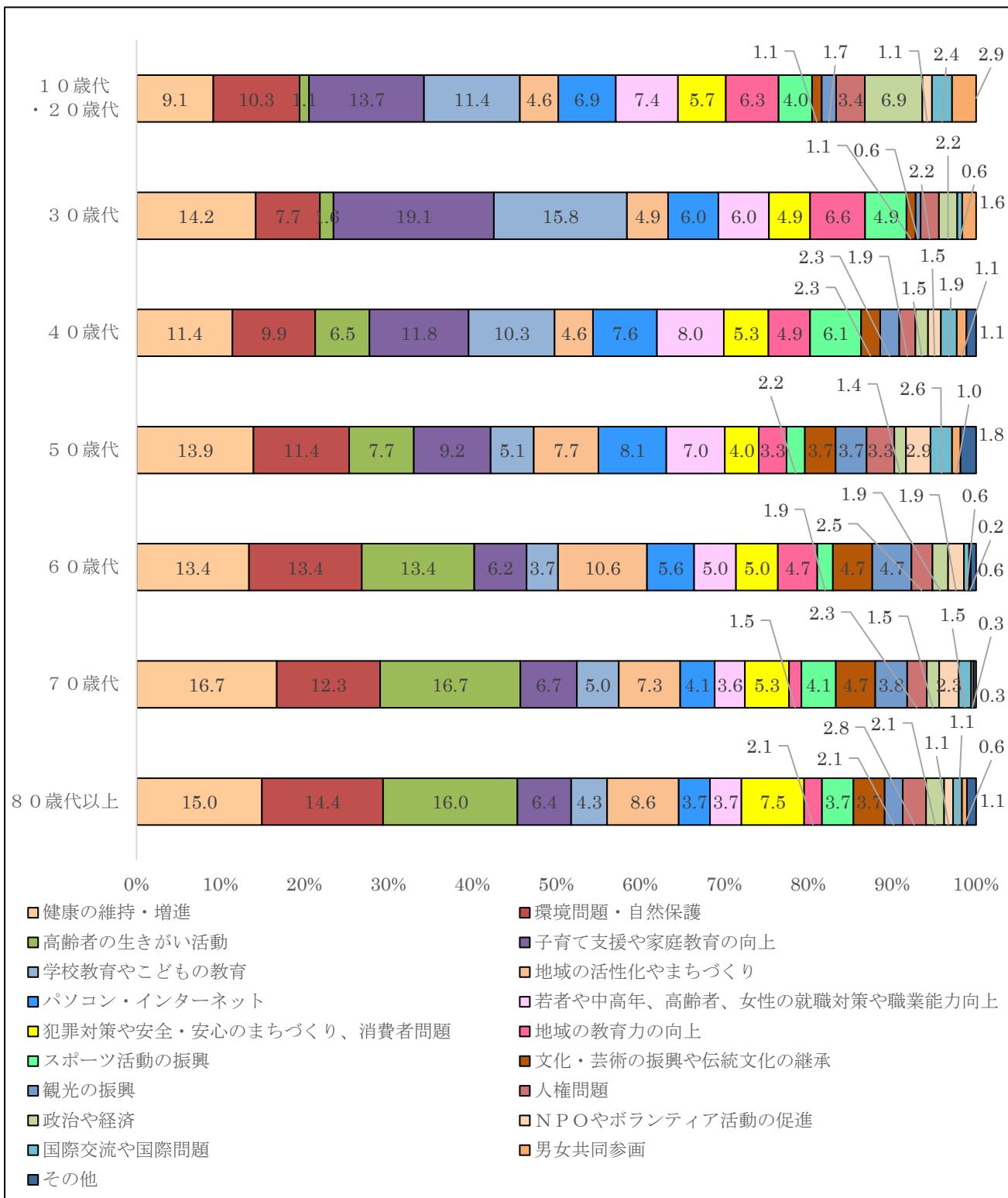
■ 学習課題の重要度について



学習課題の重要度については、「健康の維持・増進」、「環境問題・自然保護」、「高齢者の生きがい活動」、「子育て支援や家庭教育の向上」などが前回の調査結果と同様に上位となっています。

また、今回の調査では、「学校教育や子どもの教育」と回答した人の割合が高くなっています。こどもの教育への関心が高まっていることがうかがえます。

■ 学習課題の重要度について（年代別）



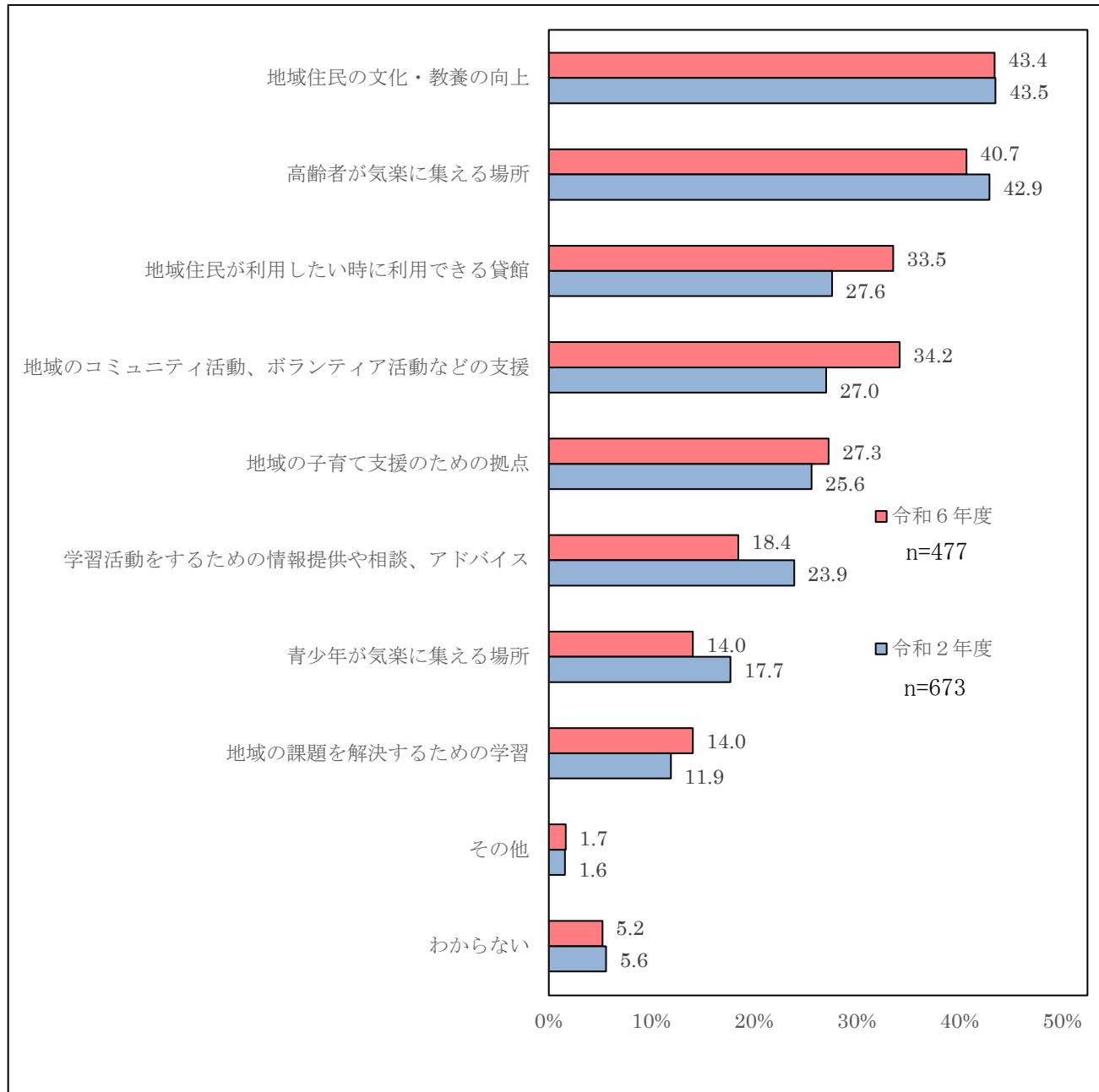
年代別に見ると、10歳代・20歳代から40歳代で「子育て支援や家庭教育の向上」、「学校教育や子どもの教育」、50歳代以上で「健康の維持・増進」、「高齢者の生きがい活動」の割合が高くなっています。

学習課題の重要度がライフステージに応じて異なることがうかがえます。

(5) 公民館等への期待

- 問 あなたは、公民館等が、どんな目的をもった施設であることを期待しますか。
(複数回答可能で、割合は各項目の選択者数をnで除したもの)

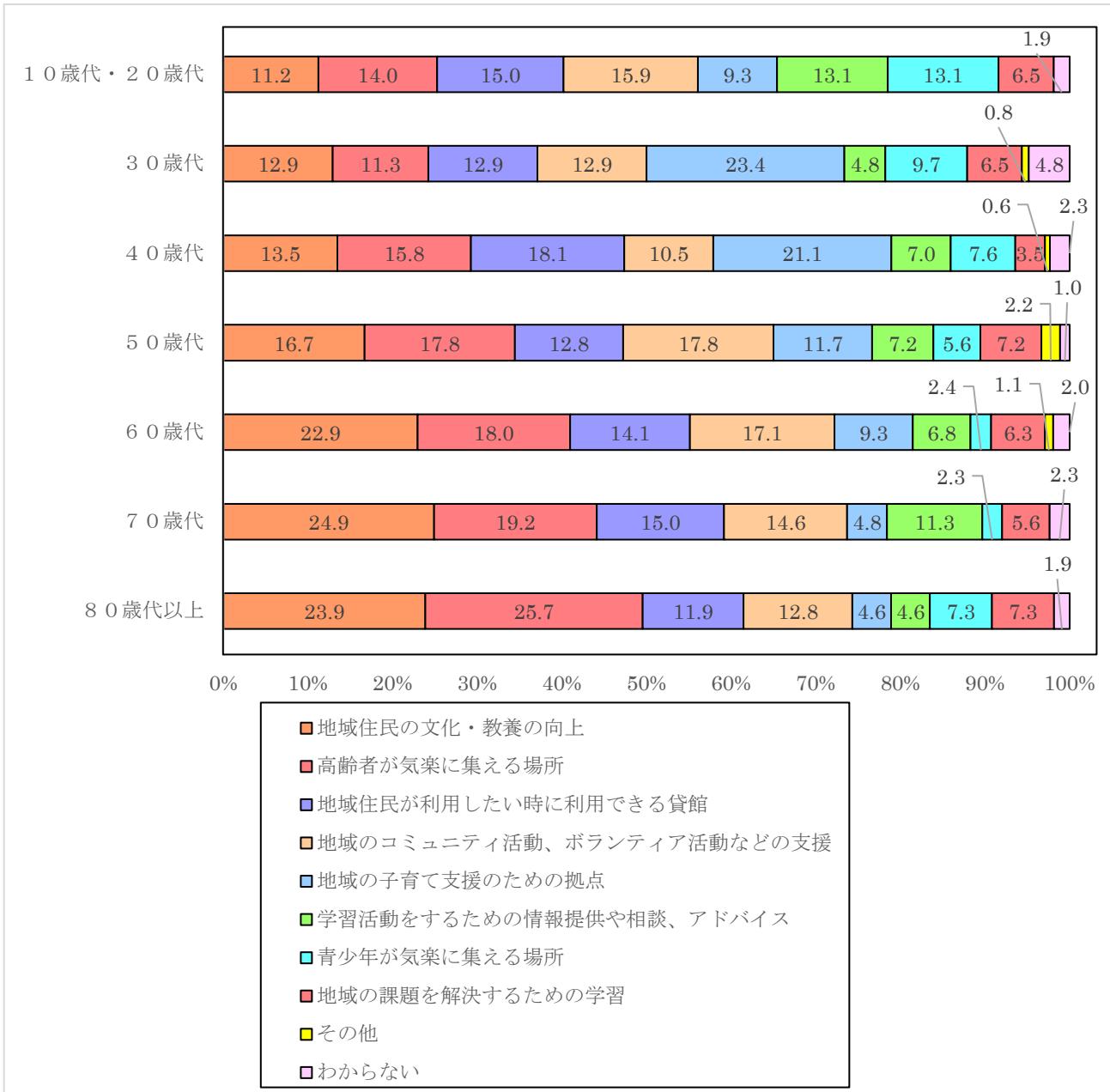
■ 公民館等への期待について



公民館への期待については、「地域住民の文化・教養の向上」、「高齢者が気楽に集える場所」、「地域住民が利用したい時に利用できる貸館」の割合が高くなっています。

また、前回調査より、「地域のコミュニティ活動、ボランティア活動などを支援するための施設」、「地域の子育て支援のための拠点施設」と回答した人の割合が増えています。

■ 公民館等への期待について（年代別）



年代別で比較すると、どの年代でも「地域住民の文化・教養の向上」の割合が比較的高くなっています。

30歳代、40歳代では、「地域の子育て支援のための拠点」の回答が多く、60歳代以上では、「高齢者が気楽に集える場所」の回答が多くなっています。

青少年、子育て世代、高齢者等のニーズに応じた的確な学習サービスの提供が求められます。

年代別で比較すると、どの年代でも「地域住民の文化・教養の向上」の割合が比較的高くなっています。

30歳代、40歳代では、「地域の子育て支援のための拠点」の回答が多く、60歳代以上では、「高齢者が気楽に集える場所」の回答が多くなっています。

青少年、子育て世代、高齢者等のニーズに応じた的確な学習サービスの提供が求められます。